

CO2 地下貯留事情



CO2 パイプラインが米国内を西に北に

中西部の石炭産地で回収された CO2 は

ご承知のように、テキサス州プラノを本拠地とする石油開発会社 Denbury Resources は、老朽油田で CO2 を使用した原油の増進回収 (enhanced oil recovery) を行なっています。

同社はミシシッピ州で最大の石油生産会社で、同州の州都ジャクソンからそれほど遠くない Rankin 郡北部の地下から高純度の CO2 を採取して、自社のパイプラインで自社の老朽油田に輸送しています。

現在

同社はルイジアナ州のドナルドソンヴィルからテキサス州のヒューストン近郊まで全長約 510 キロメートルの CO2 パイプラインを建設しています。

年内の完成を目指しているこのパイプラインは Green パイプラインと呼ばれ、ヒューストンの南にある老朽化した Hastings 油田まで天然の CO2 を輸送します。

Hastings 油田は、Stanolind Oil and Gas Company (Amoco Production Company の前身) が 1930 年代に発見した歴史のある油田で、Denbury は今年の 2 月に買収を完了しています。

CO2 は全て

米国には CO2 による原油の増進回収が可能な老朽油田が多数あり、CO2 を確保した会社がビジネスを拡大できます。

Denbury は、天然であれ人工的であれ、CO2 を求めています。

同社は 5 月に、「計画中の 7 件の石炭等のガス化プロジェクトから CO2 を購入する契約を締結しており、そのうちの 3 件は中西部地域のプロジェクトである」(5 月 5 日、CQ FD Disclosure)

と発表しました。

米国では、石炭をガス化して発電(IGCC)したり、パイプライン輸送が可能な品質の代替天然ガスを製造する等のプロジェクトの計画があり、副生する CO2 を回収する予定です。

そして Denbury は今月になって、「中西部地域で計画されている石炭ガス化設備と同社の既存の CO2 パイプラインを接続する新パイプラインの可能性について総合的な調査を開始している」(7 月 14 日、BUSINESS WIRE)ことを明らかにしました。

ミシシッピ州からイリノイ州およびインディアナ州まで 1,000 キロメートル前後のパイプラインを敷設する構想で、イリノイ州内については同州の商業経済省が調査資金を提供しています。

構想は大きいほど大きな雇用が創出されます。

Denbury は、イリノイ州およびインディアナ州で計画中の石炭ガス化設備で回収される CO2 を購入する契約を結んでおり、その他のプロジェクトについても交渉を進めているようです。

石炭ガス化プロジェクトは

エネルギー省(DOE)の融資保証を前提とするものが多いようです。

Denbury が契約した中西部地域の 2 件の石炭ガス化プロジェクトは DOE との交渉も順調に進んでいます。

DOE は、「化石燃料関係では 4 件のプロジェクトの審査を進めている」(7 月 11 日、Dow Jones Energy Service) そうで、近いうちに結果がわかると思います。

ひとこと

大型の石炭ガス化設備で回収される大量の CO2 は、どこに移送するにしてもパイプラインが必要です。

大規模な CO2 パイプライン網の構築を進めている石油開発会社 Denbury に期待が集まっています。

(YY)

(Web 版)「世界のエネルギーの話題」(2009 年 7 月 21 日)

本レポートは、世界の 2,100 以上の新聞、3,500 以上の業界誌、500 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバのデータベースサービス、および Web で入手した多数の記事、レポートを比較、分析して、その結果の一部をご紹介します。(山崎由廣)